

◆議員の声◆

公会計改革とアカウンタヒリティー



瀬戸 健一郎
(草加市議会議員)

草加市のある福祉施設が市からの補助金のうち人件費の一部を流用して施設改良に当てていたことがわかり、問題となった。実態に則した補助要綱が整備されておらず、担当部局も承知したまま、三年間にわたり一千七百万円もの補助金が浴室の改良に当てられていたのだ。この実態は残念ながら過去の決算

特別委員会の審議ではチェックの目ぞのがれ、明るみに出ることはなかった。

ここで問題だと思うのは、自治体経営に認められてきた「予算の弾力的運用」や「裁量的行動」といわれる原則があまりにもあいまいに適用され、市民の税金が何にどのように使われているのか結果的に分からないように会計処理されていたことだ。

いま、行財政改革の柱に「公会計」の見直しをあげる動きがあるが、私も今回のことを通して、その有用性と必要性を痛感させられた。

地方自治体の経営は総計予算主義という考えの下で全ての収支が予算化されて執行される。草加市の場合も三月定例議会ですべての予算案が提出され、翌年九月定例議会に提出された決算案が決算特別委員会の審議を経て承認されて一会計年度が完結する。年度当初予算化された私たちの税金は年四回召集される定例議会や必要に応じて召集される臨時議会に補正予算案等が提出されない限り、ノーチェックで消化されているのである。

それだけに決算案の審議は方法によっては相当に煩雑な作業となるはずであるが、通常三日間程度の審議を経て承認される。その際のポイントとなるのが予算消化の割合だ。予算が余ると事業執

行が充分に行われていないのではとの指摘を受けるし、予算超過すれば年当初の予算積算の甘さが指摘される。そこでは、予算と決算の金額に目が奪われ、実際にどのような成果を上げたのか、といった企業会計で示されるバランスシートのような中身の議論は忘れ去られてしまふ。

これが特に複数の部局に横断的にまたがるような事業となるとセクト主義と呼ばれる縦割り行政の中で、それぞれ個別的に処理されることになり、事業全体の執行状況はますますわかりにくくなる。まして、第三セクターや民間施設への委託事業となると議会や監査委員会のチェック機能さえ及ばないところまで税金が使われることになる。

また、建設事業や物品購入が人件費等の経費と同じ現金支出とし

て処理される現在の現金主義会計のもとで、単純な家計簿と同じ様に単式簿記で収支だけをただ記帳すればよいという今の予算書や決算書自体が、自治体経営をとて不透明なものとしていることは否めない事実だ。

営利を目的としない行政サービスの成果は、必ずしもその対価としての売り上げ金額のように数値化することは出来ない。しかし、その中でも道路や下水道工事、施設の建設、はたまた消防車や高規格救急車などの備品購入等は、それらを全て財産として計上し、発生主義的な考えをもとに減価償却の対象として損金計上しておけば、建て替えや買い換えるの時期は一目瞭然となり、経費の年次の見通しが可能となり、年度予算の弊害が回避されるばかりではなく、行政マンにコストに対する意識を植え付けることになる。そして、これまでいわゆる予算の流用で処理していたよう

な経費、例えば官官接待等に使用されていた余剰経費や食料費も企業会計という接待交際費や会議費という必要科目として積極的に処理し、チェックすべきなのである。

さらに複式簿記による連結決算を実現することで、自治体経営の全体像が分かりやすくなり、アカウンタヒリティーの実現、向上に何よりも功を奏することになるだろう。地方議員の一人として、明ける一九九八年がこのような「単式簿記から複式簿記へ」「現金主義から発生主義へ」という転換をすすめる公会計改革元年となることを強く願ってやまない。

(完)

E-mail: ken-seto@st.rim.or.jp

URL: http://www.st.rim.or.jp/~

ken-seto

私の処世観

私の処世観を述べれば、人の此の世に処するに於て、智能の優れたるは勿論必要であるが、更にそれを駆使する性格の練磨が必要だ。恰度智能は刃剣の如きものであつて、その鋭利なればなる程、これを使う技能が必要となるに同じだ。

これは性来の質にもあるが又修養によつて或点までは達し得られる。

……性格の良否は「その(欲)高く大なるか、或は卑く小なるか」によつて分別し得るが、

一般に利己、利他と區別して称えるが、真に自己愛に徹すれば智能の働きのよつて、高く大なるものを求むる筈だから、結局種属愛までに發展向上するのは必然であろう。

……

「人生の本舞台」より

越し方に

重ね重ねし

過ちは

行く手を照す

光なるべし

昭和十年

尾崎行雄

世界と議會へ十二月号 目次

學堂言行録

(表2)

〈国会への直言〉

(2)

隨筆 子育て教育の反響

安川雅章 (3)

(エール学園アルト・ライフナビゲーション研究所事務長)

グローバリズム國家形成に向けてのアプローチ……山口 潔 (5)

(神戸輸入促進フォーラム事務理事)

■ロングインタビュー 菅直人民主党党首に聞く

「政権交代」の意義

民主政治を目指して……聞き手 甘夏あおい (7)

■シリーズ二十一世紀の日本

世界の株価暴落と二十一世紀の課題

文明の要諦―善良な管理者の注意義務……和佐隆弘 (17)

(日本経済研究センター研究委員)

■シリーズ外国人の眼

「アジア的価値観」という呼び名は誤り……ヒュー・コークツィ (23)

(元駐日英領大使)

『一粒の麦』・心もった追想の出版記念会

林 卓男 (25)

(政治評論家・(財)尾崎行雄記念財団理事)

春秋雑感―娘への手紙によせて

原不二子 (27)

(財)尾崎行雄記念財団常務理事)

〈議員の声・有権者の声〉

公会計改革とアカウンタビリティ……瀬戸健一郎 (28)

(愛知県議会議員)

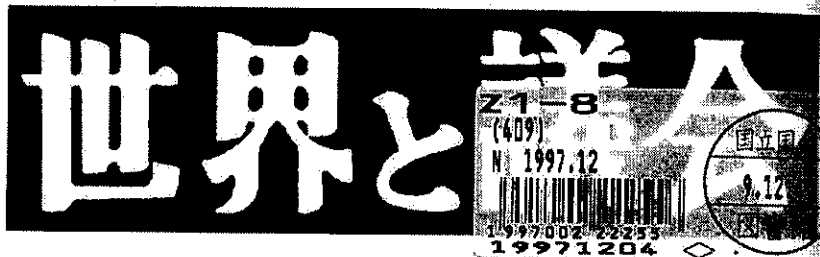
II 世界の眼 II

中国訪問記(天津、大連、瀋陽)……山岡道男 (30)

(早稲田大学アジア太平洋研究センター教授)

財団だより・編集メモ

(32)



主な内容

- ロングインタビュー 菅直人民主党党首に聞く
「政権交代のできる民主政治を目指して」
聞き手 甘夏 あおい
- シリーズ二十一世紀の日本
世界の株価暴落と二十一世紀の課題
和佐 隆弘
- シリーズ外国人の眼
「アジア的価値観」という呼び名は誤り
ヒュー・コータツィ
- 《議員の声・有権者の声》
公会計改革とアカウントビリティー
瀬戸 健一郎
- =世界の眼=
中国訪問記（天津、大連、瀋陽）
山岡 道男
- 〈随筆〉
子育て教育の反響
安川 雅章
グローバリズム国家形成にむけてのアプローチ
山口 潔

12月号

1997

尾崎行雄記念財団

C Y M